



彗星のように現れた
「ブラック企業」

本誌前号の記事について、「事実と異なる内容を多く含む」との声明を発表したトレーニングジム「ライザップ」。無論、その主張は「妄言」に過ぎない。その証拠に、「背骨が折れた」「後遺症が残った」「過酷な勤務で倒れた」といった被害報告が相次いでいるのだ。

客もスタッフも続々と

「ライザップ」

特集 脱走者たちの被害報告 背骨が折れた! 後遺症が残った!



ライザップの「高額商品」と瀬戸健社長 (上右はある店舗のシフト表)

「私の夫はすでに86歳で、そのうち私が介護をしなければならぬ状況にもなりかねない。そうなれば筋肉も必要だろう。そう考えてライザップに通う決心をしたのですが……」

言葉を絞り出すのは、千葉県在住の女性。御年73歳で、元々、「腰椎すべり」という持病がある。

本誌前号の記事を受け、ライザップを運営する親会社の「健康コーポレーション」は、

〈RIZAPに関する一部週刊誌の記事について〉
との文書をHPで公開。

それによればライザップは、〈世界標準の身体活動に関するチェックリスト〉を用いて入会希望者の健康状態を確認。基準にそぐわない人の入会を拒否しているという。持病がある73歳の高齢女性は、まさに〈世界標準のチェックリスト〉で慎重に入会を判断しなければならぬケースだが、

「年齢が心配だったので店長に聞いたら、もっと年上の方で頑張っている人もい

るから大丈夫」と太鼓判を押されました。また、「腰椎すべり」の診断書を書いてもらって店に提出しましたが、問題ありません」との返答。それならば、と今年3月20日に契約したのです(同)

入会金と2カ月分のトレーニング費用、約37万円を先払い。さらに、勧められるまま、プロテインやサプリメントなども購入。全部合わせて1カ月分で約7万円もするシロモノだ。

「それらについての説明はほとんどなされず、パンフレットを渡された。ただ、高齢の私には、読んでもとても理解できるようなものではありませんでした」

と、女性が振り返る。

「糖質を制限し、夜は食事をとらずプロテインだけにしたので痩せるには痩せました。ですが、トレーニングが終盤にさしかかった5月末、トレーナーから、急に食生活を元に戻すとリバウンドする」と、プロテインとサプリメントを継続して飲用するように言われた。

結局、3カ月分を購入し、20万円くらいかかりました」

この女性に「異変」が起こるのは、それからほどなくして。トレーニングの帰りの電車の中で急に腰に強い痛みを感じ、動けなくなつてしまったのだ。

「腰椎すべり」が再発したのです。それから腰痛が酷くて体を動かせず、家事すらままならない状態になつてしまった。これまでも腰痛が出た時は薬を飲めばある程度は良くなったのに、今回はかりは薬を飲んで痛みが引かない。主人からは、歩けなくなつたりしたら大変だから、もう辞めなさい」と言われました」

女性はライザップに退会を申し出た。しかし、「トレーナーは、期間を延長すれば大丈夫」とか、治るまで待ってます」などと言つて退会に同意してくれない。毎月、月初めに自宅に送られてくるプロテインとサプリメントのセットも、もう送つてこないで」とトレーナーに連絡したので

すが、出来ません」の一点張りで困りました」

持病がある高齢女性に安易にトレーニングを始めさせ、案の定、健康を害する

お見舞い品はどら焼き

本誌記事への「反論」としてHPで公開された文書の内容について、もう少し細かく見てみよう。

まず、人件費率を、(売上額の22%)だとしている点だが、ライザップの親会社で運営元の「健康コーポレーション」の2013年3月期の売上高は約17.8億円、人件費は約12億4000万円。人件費率は約7%である。

また、本誌記事が、ライザップの過酷な労働環境に触れた上で紹介した、朝6時に出勤し、閉店まで17時間ぶつ通しで働くこともサラにある」との現役店舗責任者の証言について、(こうした事例は一例も確認できておりません)と、主張する。が、本誌はライザップのある店舗の

結果を招いたばかりか、臆面もなくサプリメントを送りつける。そのことが、何よりライザップの体質を表しているのではあるまいか。

「シフト表」を入手。そこでは開店前から閉店までぶつ通しで働いたことを示す(事例)が確認できたことを指摘しておこう。ライザップの元チーフトレーナーもこう明かす。

「仕事は本当にキツくて、私は入社してすぐに十円ハゲができました。店での拘束時間が長いだけでなく、ゲスト(客)からの食事報告のメールへの返信にも追われまくり、最終的には電車の中で倒れてしまった。チーフトレーナーになるとパートの子たちの世話もするのですが、皆、長時間労働で顔色が悪く、体調が悪い。辞めたい」と言う子が本当に多かった」

ライザップによれば、そうした疲弊しきつたトレーナーは(質が極めて高)く、

(経験豊か)でもあり、(安性)に最大限配慮した運動指導を実施して」いるというのだが、それならば、どう説明するのだろうか。啞然とする他ない「事故」が相次いでいることについては――。

「私はライザップでのトレーニングで背骨を骨折してしまいました。正確な診断名は、第11胸椎圧迫骨折というものです」

衝撃的な話をするのは、福岡市在住の男性(45)。

「問題が起こったのは今年3月27日、11回目のトレーニングの時でした。前の回の時、85kgのバーベルを持って10回のスクワットが出ていたもので、その日は負荷を90kgまで上げて、それもクリアした。すると、トレーナーが、120kgいってみましょう」と言い出したのです」

4回、5回、6回……と必死でスクワットを続け、

「7、8回目の時、背中にピキッと物凄い痛みが走った。で、トレーナーがもう一回、120kgいき

ましよう」と言うのを断つて、トレーニング後に病院に行った。その時に撮ったレントゲンでは異常は見つからなかったのですが、後日、改めてMRI検査を行い、胸椎の内部で骨折が起こっているのが分かった」

と、男性が続ける。

「それだけではなく、胸椎椎間板ヘルニアとも診断された。9番目と10番目の胸椎の椎間板が後方に突出して、脊髄を圧迫している状態でした。診断した医師からは、一歩間違えれば緊急オペをしなければならぬほどの重症に陥っていた可能性があり、半身不随になつていてもおかしくなかった、と言われました」

トレーニングで大怪我を負わされたことを男性が伝えると、ライザップ店長は、「通常、60kg以上のバーベルは客に持たせない」

「120kgのバーベルでスクワットをさせてしまったのは、こちらのミスです」

と、すんなり非を認めたのだが、

「その後の話し合いの席に

は、遅刻。さらに、そこで渡されたお見舞い品が、どら焼き。だったのには呆れた。糖質制限ダイエットをさせていた客に、見舞いの品として糖質の塊を渡すと

「人生を狂わされた」

この男性は今でも、背骨の内側を抉られるような痛みに耐えながら日々を送っているが、神奈川県在住の20代女性の場合、ライザップに通ったことによって皮膚に異常が出たという。

「娘は昨年7月に2カ月のコースでライザップに通っていました。で、糖質をなるべく摂らないライザップの食事を忠実に守っていたのですが、始めて2〜3週間ですぐにバツと湿疹が出た。さらにそれが、肩や胸、お腹に広がり、症状が出た部分の肌の色が黒くなっていたのです」

そう話すのは、被害女性「の母親である。

「皮膚科でもらった薬を塗っても治らないので、大きな病院で精密検査をしたと

は何事でしょう。当然、トレーニング代金は返してもらえない、治療費も出してもらうことになりましたが、今後、訴訟を起こすべく弁護士に相談します」

ころ、色素性湿疹だと分かった。この疾患は、炭水化物を完全に断つといった無理なダイエットをする若い女性が発症することが多く、お医者さんはすぐにライザップの低糖質食事が原因の可能性が高いと見て、普通食に戻して下さい」と言われました」

色素性湿疹になったことを伝えた後のライザップ側の対応に、母親は強い不満を抱いている。

「入会から1カ月以上が経っていますが、今回は特別に全額返金いたします」

紆余曲折の末、一旦は幹部社員がそう述べたのに、

「実際に店に退会したいと電話すると、対処できない」と突っぱねられ、その後、幹部社員は、やはり全

額の返金は無理」と言い出したのです。今では娘の症状も落ち着きましたが、ライザップのことは早く忘れない様子です。私たちは例のCMがテレビで流れると、さりげなくチャンネルを変えます」(同)

千葉県に住む男性(53)もライザップのことを「忘れない」と考えている1人だ。「私がやっていたのは全16回、2カ月のコースで、トレーニングが始まったのは昨年5月6日。トレーニングで使うバーベルの負荷は最初は20kgくらいだったのですが、クリアするたびに25kg、30kg、35kg……と上がっていく。負荷が40kgになった時には、すでに手の痺れがはじめていました」と、男性は言う。

「10回目のトレーニング時には負荷は60kgになり、手の痺れだけでなく握力も低下した状態だったので、手に力が入らない」とトレーニングに言いました。すると彼は、革バンドのようなものでぐるぐる巻きにして私の手をバーベルに固定

し、その状態でバーベル上げを行わせたのです」

驚くべき「スパルタ」だが、それでも男性がライザップをやめなかったのは、前払いで数十万円の大金を払っているという「心理的プレッシャー」があったからだ。歯を食いしばってでも「結果」を出さなければ大金が無駄になってしまう——というわけで、男性は痛む体を引きずりながら14回目のトレーニングに向かった。が、もはや体がポロポロなのはトレーニングの目にも明らかで、その日はそのまま病院に直行。

「MRI検査を受けると、頸椎椎間板ヘルニアになっていることが分かった。1カ所は軽症だったものの、第4、第5、第6頸椎の間

の3カ所はかなり重症だと言われてしまいました。それをライザップに伝えると、未消化のトレーニング3回分の代金を返金するという。それに不満を言ったら、結局、トレーニング代金全額や未使用のプロテインの代金など、四十数万円が返っ

てきました」(同)

最終的には、ヘルニアの治療費もライザップが3カ月ごとに精算することになったが、男性は暗い顔でこの心情を吐露する。

「1年が経った今でも、手足が痺れる後遺症は残ったままです。医者に言わせれば、首が完治しない限り神経が圧迫されたままなので手足の痺れは残る、とのことでした。あと、私はヘルニアになった後、2週間ほど仕事を休まざるを得なくなり、結局、窓際の部署に左遷されました。ライザップによって人生を狂わされてしまったのです……」

こうした数々の「事例」についてライザップは、「ご質問事項は、いずれもゲストのプライバシーに関わる事項であり回答致しかねますが、弊社としては、今後とも、ゲストの安全・健康を最優先として、最高の結果を出し続ける所存であることを申し上げます」

早く自らの足元を見つめ直し、被害状況に「コミット」して欲しいものである。